



2010年7月1日掲載

## 親子湘南紀行／はこね編

今月は、私と我が息子2人で行った日帰り旅行の様をお送りする。今回も、行き先は小田原方面、さらには湘南なのだ。

ちょうど1年前にも、「[親子小田原紀行](#)」と題して2人の日帰り旅行をお送りした。前回は行き当たりばったりの旅行だったが、今回はある程度計画を練っている。

昨年と違うのは、小田原でちくわの製作体験を行い、江ノ電にも乗るのだ。そのため、ちくわの製作体験は事前に予約を行った。

ただ、1つだけ懸念材料があったのだ。それは、天気である。

梅雨に入ったばかりということもあり、予報は雨。果たして、天気は持ってくれるのだろうか？

日帰り旅行の日の朝、天気は曇り。ただ、午後には雨との予報である。

判断に迷ったが、折りたたみ傘を持っていくことにした。折りたたみなら、普通の傘よりは荷物にならない。

さてさて、昨年に引き続き小田原に行くのだが、今回も小田急ロマンスカーに乗る。しかも、今回は何と1両目の展望席を確保することができたのだ！

ロマンスカーといえば、誰が何と言おうと前面展望が売りである。せっかくロマンスカーに乗るのならと思い、予約時に確認をしたら展望席に空きがあるではないか!!

なので、早速展望席を予約した。我が息子も、きっと喜ぶに違いない。



新宿に着き、ロマンスカーのホームへ。今回乗車する「はこね15号」は、現在ロマンスカーとしては最古参のLSE 7000形である。

写真を撮ってい

ると、そばにいた外国人に「写真をお撮りしましょうか？」と英語で話しかけられた。せっかくなのでお願いして、我が息子とともに写真に収まる。

10:40、定刻に新宿を出発。一路、小田原へと向かう。

車内販売では、昨年に引き続きMSE弁当を購入しようとしたが、何と売り切れ。仕方なくVSE弁当にしたものの、我が息子は満足げに平らげた。

一方の私はというと、真っ昼間から牛タンをつまみにビールである。ビールを飲んでの移動は、鉄道の旅ならではだ。

しかも、前面展望を楽しみながらなので贅沢そのもの。2列目ではあるが、前がよく見える。



余談だが、最前列はおばちゃん4人組。「美女4人組の箱根温泉旅」というレジュメを持

っていたが、美女かどうかは……まあいいや。

11:50に小田原到着。我が息子は、今まで乗っていたロマンスカーに手を振り見送る。

ここで箱根登山鉄道に乗り換え、ちくわ製作体験ができるかまぼこ博物館の最寄り駅となる風祭へ。昔はここから2両編成の小さな電車が発車していたが、今では小田急の車両が箱根湯本まで往復する。



小田原から2駅で、風祭に到着。久々に登山電車に乗ったが、駅の変貌ぶりには驚いた。

何しろ、昔の面影が全くない。何よりも、すっかり「かまぼこの街」となっていたのだ。

[[トップページ](#)]

この続きは、[こちら](#)をご覧ください。



2010年7月8日掲載

## 親子湘南紀行／ちくわ編

今月の「つれづれWEB」は「親子小田原旅行」と題してお送りしているが、今回はその2回目となる。1回目は[こちら](#)からどうぞ。

風祭に着いた我々は、駅に直結しているかまぼこのおみやげ屋へ。いつの間にか、風祭は「かまぼこの街」になっていたようだ。



建物がいくつか分かれており、おみやげ屋のほかレストランなどが駅近くの国道1号線の両側に広がっている。これらのうち、今回我々が行うちくわの製作体験は「かまぼこ博物館」で実施しているのだ。

かまぼこ博物館では、本来はかまぼこの製作体験ができる。しかしながら、毎週水曜日はちくわの製作体験となっている。

かまぼこの製作体験が1時間以上かかるのに対し、ちくわは十数分ほど。飽きっぽい子供なら、むしろちくわの方が好都合といえるだろう。

博物館に入り、ちくわの製作体験の申し込み手続きを済ませる。体験費用は1人525円だが、未就学児は大人の付き添いが必要なので、今回の我々は1人分の扱いとなるのだ。

時間までの間、館内を散策。かまぼこやちくわの原料、板の秘密などがわかりやすく展示してある。

製作体験の時間となり、教室へ。10人ほどで囲める大きなまな板に集まり、いよいよちくわ作りを始める。

ちくわ作りの方法は2つ。1つは、まな板に練った魚を伸ばし、包丁で竹筒に巻き付けていく方法である。

もう1つは、手で練った魚を竹筒に直接塗りつ

ける方法。さすがに5歳児には包丁を使う方法は難しいので、手で直接塗りつける方法を選択する。

竹筒に均等になるように形を直した以外は、我が息子だけでやり遂げた。本人は、粘土遊びの感覚なのかもしれない。

形ができたちくわは、ロースターで焼くために係員へ。係員に「上手にできたね」とほめられて、我が息子にご満悦のようだ。



ちくわが焼き上がるまでの間、再び館内を散策。かまぼこの板をキャンパスに見立てた作品を見て、我が息子も応募したくなったらしい。

そうこうしているうちに、ちくわが焼き上がった。ちゃんと、ちくわ特有の焦げ目も付いているのだ。

できたてでアツアツのちくわを見て、我が息子も大満足。「ママに見せるんだ!」と、お持ち帰りすることにした。

再び駅直結のおみやげ屋に向かい、おみやげを調達する。中は至る所で試食が行われ、我が息子も試食に舌鼓を打つ。

去年も買ったチーズ入りかまぼこや串に刺さったかまぼこのほかに、明太マヨネーズ入りかまぼこなども購入。我が息子のお弁当用に、車の形をしたかまぼこも買った。

一通りおみやげを購入すると、登山電車で小田原へ。職場へのおみやげを買ったのち、東海道線に乗った。

今回の旅における、もう1つの目的地に向かったのである。以後、[こちら](#)へ続く。

[\[トップページ\]](#)



2010年7月18日掲載

## 親子湘南紀行／江ノ電編

今回は、我が息子との日帰り2人旅「親子小田原旅行」の3回目。[1回目](#)、[2回目](#)はそれぞれをご覧ください。

小田原から東海道線に乗り、藤沢へ向かう。その車中、我が息子はおやつタイムである。

とはいえ、実は行きロマンスカーでもおやつを食べていた。そこでの余りを食べたのだ。

また、ロマンスカーで購入したMSEのはしセットを見る。しかし、我が息子のリュックに入れていたせいか、はし箱が欠けていたのだ。

ところで、懸念されていた雨は全くの降らずじまい。むしろ、晴れて夏の日差しが照りつけるようになった。

いい方向に天気予報が外れて一安心。持ってきた折りたたみ傘も、使う場面はなさそうである。

藤沢に到着し、江ノ電乗り場へ。どうしようか迷ったが、1日乗車券「のりおりくん」を購入する。



江ノ電には、ただ乗りに来たわけではない。実は、今回の旅にはもう1つの目的があったのだ。

それは、腰越である。この駅は、ホームの長さが3両分しかない。

そこに4両編成の電車が到着すると、鎌倉側の1両はドアが開かないのだ。そして、その1両は沿線のとある家がよく見えるのである。

この様子は、「くもじい」の番組の江ノ電特集で取り上げられた。我が息子は、この家を見たがっていたのだ。

腰越の「例の場所」は、藤沢からだ一番前に当たる。ところが、最前列には空席がなかった。

しかしながら、ご婦人が「すぐ降りますから」

と席を譲ってくれたのだ。せっかくなので、我が息子が座ってカブリツキを堪能する。



この写真の先が、話題の腰越なのだ。先頭車両は、腰越のホームを通り過ぎて停車する。

そして、窓の外を見ると、テレビで取り上げられた家の横付け状態に！ 我が息子は、この家を見て大喜びである。

腰越の次は、鎌倉高校前。ここは、有名な海沿いの駅である。

せっかくなので海に降りてみることにしたが、我が息子はあまり乗り気ではない様子。どうも、靴に砂が入ることを気にしているようだ。

それでも、海岸に降り立つと海を楽しんでいた。カメラを向けると、どういうわけか腕を組んで海を見つめるポーズになる。

あとで嫁さんに聞いたら、どうも坂本龍馬を意識しているらしい。大河ドラマは、5歳児にも影響を与えているようだ。

再び鎌倉高校前へ。藤沢から乗った電車の2本あとの電車に乗ることになった。

江ノ電は、12分間隔で運転されている。そのため、2本あとということは、24分たったということになるのだ。

よって、海岸にいたのは実質20分ほどである。わずか20分でも、予報に反して晴れた海辺では日焼けしてしまった。

鎌倉高校前から、鎌倉へ向かう。この続きは[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)





2010年7月28日掲載

## 親子湘南紀行／湘南新宿ライン編

今月お送りしている「親子小田原旅行」も、いよいよ最終回である。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)はそれぞれを見ていただきたい。

鎌倉高校前から江ノ電で鎌倉へ。海沿いの車窓は実に眺めがよく、江ノ電といえば真っ先に思い浮かぶ風景である。



一方、車内は学校帰りの高校生や観光客で混雑していた。時期的にアジサイの見ごろということもあり、平日にもかかわらず観光客が多いのだ。

終点の鎌倉に到着し、大量の乗客が降り立つ。そのまま流れに乗り駅構内を進むと、とあるキャラクターが出迎えてくれた。



超有名なアンパンのキャラクターとは、似て非なる風貌である。果たして、いったい何者なのか？名前を「地パンマン」といい、アンパンのキャラクターと作者は一緒。「くもじい」の番組でも取り上げられた代物なのだ。

この向かいには、江ノ電のグッズショップも。

ここで、我が息子用のおみやげとして江ノ電のボールペンを購入した。

鎌倉からは、JRで帰ることに。湘南新宿ラインを使えば、自宅まで乗り換え1回だけで済むのである。

しかしながら、いい時間の電車がない。とりあえず、直近の横須賀線で大船まで出て、そこで東海道線から来る湘南新宿ラインに乗ろうと考えた。

本来なら、大船の次の戸塚まで行くと、ホームの対面で湘南新宿ラインに乗り換えることができる。でも、あえて戸塚ではなく大船で乗り換えたいのだ。

というのも、どうしても座席を確保したかったのが理由。実は、我が息子のお昼寝タイムを少しでも稼ぐ算段である。

鎌倉から2駅で、大船に到着。ここで、湘南新宿ラインに乗り換えるのだ。

ところが、乗ろうとしていた17:33発高崎行きの表示がなく、その次の17:44発小金井行きが表示されていたのである。時間的には十分な余裕があるのに、なぜこんなことになっているのか？

この日の湘南新宿ラインは、乗り入れる東北貨物線の信号トラブルがあった影響で、遅れと運休が発生していた。そのため、17:33発が運休になったようだ。

鎌倉でも、乗車した横須賀線の1本前に当たる湘南新宿ラインが運休したらしく、ホームがごった返していた。直通運転が広がることで、影響が出る範囲もそれに比例して増加してしまうのである。

17:44、大船で降りて20分以上待って、ようやく湘南新宿ラインの小金井行きが到着。しかも、この期に及んでくせ者だったのだ。

湘南新宿ラインは、ほとんどが15両編成で運転されているが、一部は10両編成。やってきたのは、その「一部」である10両編成である。

両数が少ないということは、それだけ混雑が増してしまう。つまり、座席を確保できない可能性が高くなることを意味する。

でも、かろうじてボックスシートの確保に成功。これで約1時間、我が息子は遅めの昼寝ができるのだ。

東京に近づくにつれ、くせ者のくせ者っぷりを発揮し始める。短い10両編成で、なおかつ直前の湘南新宿ラインが運休、さらには夕方のラッシュも重なって車内は大混雑になっているのだ。

無理矢理起こされてまだ眠そうな我が息子に、



こう忠告した。「降りるときには、パパの手を絶対に離さないこと。そうしないと、離ればなれになっちゃうぞ！」

我が息子は、すべてを覚ったようだ。果たして、激しい混雑の状況下、池袋で乗り換えできるのだろうか？

結果的には杞憂だった。池袋は東京北西部の一大ターミナルであるため、下車する人が結構多かったのだ。

人の流れにさえ乗っていれば、さして勞せず降りることができた。ただ、我が息子の手をしっかり握りしめていないと、迷子になりかねない状況ではある。

何とか人波をかき分け、1泊旅行をしていた嫁さんと合流。家族3人で自宅に到着した。

今回の日帰り旅行は、我が息子にとってかなりのインパクトだったようだ。この2日後にあった保育園の社会科見学で、消防士に「大きくなったら何になりたい？」と聞かれてこう答えたという。

「ロマンスカーの運転手さんになりたいです！」

[\[トップページ\]](#)